

厚生委員会における閉会中の継続審査及び調査についての報告をいたします。

地域生活支援事業の課題について報告いたします。

昨年4月に「障害者自立支援法」が施行され、10月より市町村が実施主体となって行っている地域生活支援事業の内容については、12月議会で述べましたが、その利用実態と課題について報告を求めました。

各事業の利用実数の詳細報告は差し控えますが、10月開始後3ヵ月と言う短期間で、問題、課題の把握については困難な部分もあり、現時点での具体的な問題なり課題は無いとのことです。

ただし、相談事業などは内容が大変難しく、対応にも時間がかかり、利用実数での評価には疑問はありますが「全体的に利用が少ない印象」との福祉課の評価です。今後とも普及啓蒙活動を充分展開するよう指摘をいたしました。

次に環境問題について報告いたします。

地球温暖化対策への実行計画策定については町長決済を受け近々公表するとのことでした。

また焼却場周辺住民との裁判に関しては裁判長の和解勧告を受け協議を粛々と行っているとのことでした。

健康診断に関しては焼却場周辺500mの住民の方々を対象に実施していた特殊検査を19度より廃止し、検診方法を集団検診から一般の基本検診と同様の方法で実施するとのことでした。関係町内会へお願いをしたとのことでした。ただし、志免五町内会については調整中とのことでした。

次に「事業所用ゴミ収集事業における篠栗への処理費用の負担」についてですが、昨年6月議会の委員長報告でも申しましたが、来年度に向けて何らかの対応を要請いたしておりました。

今般その方針について報告を受けました。その骨子は「処理費用を取る事を前提にその負担についての方法を含め収集業者と最終協議を進めている」とのことでした。

条例等との兼ね合いもあり、現状では年度始めからの実施は困難なようで、充分協議し早い時期の実現を要請しておきます。

次に「資源ごみ回収業者への補助金」についてですが、本件は以前から議会でも指摘をされ委員会でも議論となった訳ですが、今回、環境課より「19年度より古布の補助金を除き廃止する。今後は毎年、実勢価格の調査を行い決定する」とのことでした。

委員会として「毎年の実勢価格の調査結果による補助金検討となれば、今年度の実勢価格が最低限となり、これとの比較折衝となる訳で、企業努力も望めなくなり、調査事務も煩雑となります。

少なくとも見直しは最低でも5年スパンでやるべきと強く要請をいたしておきます。

また古布の補助金も額的には少ない訳ですが透明性を確保する上でも再検討するよう要請いたしておきます。

次に学童保育と保育園民営化について報告いたします。

学童保育の待機は2月1日現在ゼロです。

中央学童保育の事例をもとに学童保育のあり方について指摘をしまいましたが、今般、

父母の会、指導員、行政3者における会合を開催し相互に一定の理解を得ることが出来たとのことです。

また、統一化や民間委託も含めた将来の学童保育のあり方について指摘をしてきましたが「検討委員会」を立ち上げる方向で進んでいるとのことです。

また国は「放課後子どもプラン」の推進を19年度からやろうとしましたが、福岡県は既に「アンビシャス事業」を展開しており、19年度は「新アンビシャス事業」としてやるとのことで、志免町の中央、南で実施している「チャレンジ広場」は実施日数等との関係でこれに該当せず、19年度は、この「チャレンジ広場」を西と東も加え、町単独事業として対応したいとの報告を受けました。

委員会として、現「チャレンジ広場」の考え方を全てとして、同じものを踏襲するのではなく、もっと地域や町内会に情報を開示し、相談を投げかけ、いろんな支援体制を模索し展開するよう強く要請いたしました。

別府保育園の民営化については、12月議会において可決されました「志免町立保育園民営化選考委員会条例」に基づき、委員会委員の選出を終え、2月24日に第一回の委員会が開催され委嘱がなされました。

保護者会からも2名、別府保育園保育士も2名選出され問題なく委嘱されたようです。

また子育て課として福岡市と民営化される須恵町第2保育園、粕屋町西保育園の視察を行ったとの報告を受けました。

いずれにしても、しっかり保護者や関係者と議論を尽くし、コンセンサスを得た「実施計画」策定を行うよう要請いたしておきます。

次に高齢者医療制度と健康づくりについて報告いたします。

「後期高齢者医療制度」が平成20年4月から実施される訳ですが、その骨子について説明を受けました。

今議会でも議案として提案されていますが全市町村が加入する「後期高齢者医療広域連合の設置」を柱として、現行の「退職者医療制度」を廃止し、高齢者からも保険料を取ろうとするもので、これから詳細が明らかにされてくるものと思います。

次に健康づくりについて、前12月議会でも報告いたしました。新宮町との医療費比較データを精査してきましたが、その内容について、今回はもう少し突っ込んだ分析と議論を行いました。特に「腎不全患者」の実態について検証し、新宮町の場合、高齢者に占める腎不全患者割合が0.003に対し志免町は0.013と一桁違う訳で、結果「人工透析患者」の方が多くなっているわけです。

新宮町との差は、透析に進む前段の予備軍対応に差があるのではとの指摘もあり、速効的にはこの予備軍の把握とケアが求められ、長期的には高血圧、糖尿病等、合併症の多い方へのケアと、食事、運動療法などの普及啓蒙をより強く展開すべきで、国が推進しようとしている「メタボリックシンドローム対策総合戦略事業」もこの一環です。

いずれにしても、これだけのデータを構築した訳ですので、これを活かした的確なる施策の展開を要請しておきます。

最後に「元気体操」の普及に、議会を含め、全職員、庁舎挙げての取り組みを切望し、厚生委員会の閉会中の審査の報告といたします。